



成果指標				
成果指標	利用者数			
指標設定の考え方	本事業は、利用者を対象とする支援事業であることから利用者の数を指標とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標27年度
目標	350	350	350	350
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	伊予市子ども・子育て会議においても、今後の病児・病後児保育の在り方等について検討を行った。また、市内での開設についても年度当初から関係者と協議を進めてきたが、実施には至らなかったことから、今後も関係者と協議検討を進めていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	伊予市子ども・子育て会議において病児・病後児保育の必要性について確認をした。医師会と相談を行いながら、本事業を本市において実施できるよう検討を行っているが現段階では意思の多忙さにより難しいようである。しかし、利用者からの実施要望は高いため継続して取り組む課題と考えている。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	市内において事業を実施するため、引き続き取り組みを進める。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	下記の点を見直しの上、継続する。
意見、課題	二次評価の内容を踏まえ見直すこと。